

前説 わたしは10年前の2004年、わたし達の住み暮らすこの地について、牛久市および奥野のなりたち・人口・戸数・教育と人々の教育へのかかわり・奥野小の誕生について、牛久市史や広報「うしく」その他を総覧しまとめ、学校のホームページに掲載しました。

今日は、その中から皆さんに”奥野地区”についてのクイズを3つ出します。
これをきっかけに、奥野のことに興味を持ってもらえれば嬉しことです。

主題：奥野地区について

奥野小学校は、今から50年前、奥野第一小学校、奥野第二小学校そして奥原分教場がま
まって誕生しました。

では、早速問題。

問題1) 二択

奥野小学校の“奥野”という名前は、いっころ(何時頃)から使われているのでしょうか？

- 回答** ① 奥野小学校が生まれたとき
② 奥野小学校の生まれるまえ

解説 正解は② 奥野小学校の生まれるまえの今から125年前からです。

江戸という時代がありました。それから明治という時代にかわって22年目に、日本ではじめて、「町村制」にすると政府が決め、それまでの”村々”を集め、新しい“町”と“村”にしました。

このとき、奥野村が生まれました。おとなりに岡田村、牛久村も生まれました。

では、次の問題。

問題2) 二択

奥野村は、それまでのいくつかの村がまとまったのですが、いくつだったしょうか？

- 回答** ① 7
② 9

解説 正解は、① 桂村、島田村、井ノ岡村、奥原村、久野村、正直村、小坂村の7つ

このとき、大きな村の奥原村の「奥」と、久野村の「野」から「奥野」をつくり、新しい村の名前になりました。

この奥野村は、66年続いていたのですが、その後の大きな戦争(太平洋戦争)の後、政府から”もっとまとまる(合併)よう”に指導され、牛久町に加わりました。

では、ここで問題。

問題3) 二択

奥野村が牛久町に加わったのは、今から何年まえでしょうか？

- 回答** ① 奥野小学校誕生の今から50年まえ
② 奥野小学校誕生より前の今から59年まえ

解説 正解は、② 59年前 奥野小学校の誕生する10年まえの昭和30年。

今から60年前の昭和29年(1954年)、政府の指導(昭和の合併)にもとづ

き、まず、近くの牛久村が1月に牛久町に、4月に岡田村を合併して牛久町になっていました。

奥野村は、何処に加わろうか考えていたのですが、みんなの投票で牛久町にしました。10ヶ月遅れの昭和30年（1955年）2月です。

このときの新しい牛久町の人口は、およそ15,800人でした。

牛久町は、昭和41年（1966年）首都圏近郊の住宅地としての指定（首都圏近郊整備地帯）を受けて発展し、昭和61年（1986年）6月1日、人口52,500人の牛久市になりました。牛久町から牛久市までの31年間で、人口は3.3倍です。

平成25年度末の牛久市の人口は、84,019人ですが、この人口を旧村の奥野地区、岡田地区、牛久地区の3主要地区に分けてみると、

奥野地区は、5,285人、

岡田地区は、47,962人、

牛久地区は、30,772人

これと町村制になった明治22年とを比べてみると特長が見えてきます。

現在の人口増は、

奥野地区は、2.1倍、

岡田地区は、23.8倍、

牛久地区は、14.8倍、

牛久市全体としては、12.6倍。

日本全体では3.2倍の12,710万人です。

牛久市の人々の増え方は、日本全体より大きく、牛久市の中では、

今は岡田地区が一番多く、

その前は牛久地区でした。

わたし達の奥野地区が一番多かったのは明治44年（1911年）迄。

でも昭和の初めころまでは、この3地区はほぼ同じ割合でした。

奥野地区の人口は、大きな増え方はしていませんが、世帯数ではいまでも少しずつ増えています。一世帯の構成員は減っても、家は代々続いているといえます。

これこそ、生活様式の変化は受け入れつつ、家々に代々引き継がれている行事等があるのではないかと想像され、それらは、この地区の魅力であると思うのです。皆さんと一緒に調べませんか。祖先のこと。

今日のクイズは、ここで終わりにしますが、この資料を含め、より内容のある深い資料を奥野小ホームページの「わたし達の校区”奥野”」ページに案内してあります。興味のある方はご覧下さい。

——クイズおわり——

補足 1 データで見る奥野地区等

		奥野地区	岡田地区	牛久地区	合 計	伸び率	国(万)	伸び率
町村制施行		2,568	2,018	2,078	6,664	1.0	4,007	1.0
1889年	明治22年	38.5%	30.3%	31.2%				
		3,096	3,090	2,556	8,742	1.3	5,175	1.3
1911年	明治44年	35.4%	35.3%	29.2%				
牛久町に加わった		4,379	5,950	5,418	15,747	2.4	8,868	2.2
1955年	昭和30年	27.8%	37.8%	34.4%				
奥野小の誕生		4,389	6,384	6,788	17,023	2.6	9,768	2.4
1965年	昭和40年	25.8%	37.8%	39.9%				
牛久市になった		6,184	20,672	25,645	52,501	7.9	12,092	3.0
1986年	昭和61年	11.8%	39.4%	48.8%				
現 在		5,285	47,962	30,772	84,019	12.6	12,710	3.2
2013年	平成25年	6.3%	57.1%	36.6%				

(明治 5 年日本の人口 3,311 万人)

奥野小の校区は、今の行政区では、久野、太和田、桂、報徳、井ノ岡、奥原、島田、正直、中央、小坂、小坂団地、向原の 12 行政区です。新しい行政区は、小坂の小坂台に宅地をつくり昭和 44 年 1 月、25 世帯から入居となった小坂団地です。

明治 22 年（1,989 年）と現在を旧奥野村（小坂団地除く）で比べると人口は、1.2 倍の 3,040 人。ところが、世帯数をみると昭和 45 年からでも、毎年少しずつ増えています。世帯数はふえても人口はあまり増えていないのは、一つの世帯の人数は減っているということで、これは、日本中がそうした傾向にあります。

補足2 奥野地区を長い歴史を持っている地区（旧奥野村）に絞ってみる

データから小坂団地行政区を除く

旧奥野村	明治 22	昭和 45	61	25
世帯数	－	825	941	1,152
人口	2,568	3,812	3,805	3,040
世帯構成員	－	4.6	4.0	2.6
旧牛久村	明治 22	昭和 45	61	25
世帯数	－	1,927	7,255	12,907
人口	2,078	7,605	25,645	30,772
世帯構成員	－	3.9	3.5	2.4
旧岡田村	明治 22	昭和 45	61	25
世帯数	－	1,804	5,848	19,119
人口	2,018	7,749	20,672	47,962
世帯構成員	－	4.3	3.5	2.5

昭和 45	61	25
－	1.1	1.4
1.5	1.5	1.2

昭和 45	61	25
－	3.8	6.7
3.7	12.3	14.8

昭和 45	61	25
－	3.2	10.6
3.8	10.2	23.8

牛久市	明治 22	昭和 45	61	25
世帯数	－	4,617	14,724	34,160
人口	6,664	19,372	52,501	84,019
世帯構成員	－	4.2	3.6	2.5

昭和 45	61	25
－		
2.9	7.9	12.6

人口を明治 22 年と比べると、

日本全体では、3.2 倍。

牛久市は、12.6 倍、

牛久地区は、14.8 倍

岡田地区は、23.8 倍。

奥野地区は、2.1 倍。

牛久・岡田地区の伸びは、多くの宅地開発による流入人口。

奥野地区の宅地開発は小坂団地のみ。

奥野地区の人口の最も多かったのは、

平成 10 年（1998 年）で 6,484 人、

団地を除くと 3,873 人